

## とらえかた一つ 絆の輪を広げて

### 【謹賀新年】

『あけましておめでとうございます。本年も叱咤激励、なにとぞよろしくお願い致します。』

さあ今年もスタートしました。1年という時間の経過は、年を重ねるごとに早さを増していく様な気がいたしております。

私事ですが昨年は荒修行堂でお正月を迎えました。とは言え、修行場では、お正月も何も関係なく一日一日が粛々と過ぎていく毎日。その修行場で、お正月らしい事と言えば、冒頭のご挨拶『あけましておめでとうございます。』という味気のないご挨拶が、伝師上人（修行場での監督）が仰るくらいなものでした。そんなお正月を過ごし、2月10日に成満（無事に修行の課程を修了）するや、その1ヶ月後、3月11日、千年に1度と言われる未曾有（みぞう）の『東日本大震災』地震と大津波によ

り、沢山の尊い命が亡くなりました。苦しみ悲しみから立ち上がる精神力を、世界一持っている民族は日本人であると信じています。それを証拠に、震災後の日本人の対処する姿を見て、感動し共感した世界の人々。【絆】という言葉が昨年を象徴する漢字に選定されました。あの震災が、忘れかけた日本人の気質を思い出させられる大きなきっかけにもなりました。私達日本人は、あの震災をシツカリと受け止め、前に進み出した証拠が【絆】という一文字に行き着いたのではないかと思います。『絆』という漢字もそうですが、糸偏の漢字は他に『縁・線・総・結・組・級・紙・純』などなど実は、2百近い漢字がある様です。これらの漢字の意味を考えると、やはり「繋がり」というのがキーワードなのかも知れません。「繋がり」にも糸という漢字が含まれていますね。

### 【繋がりを深めて】

昨年の冬至【東日本大震災復興支援プロジェクト・絆】。公民館や町の人達に呼び掛けテント村を出店。ポスターは市役所やショッピングセンター、スクールや海の駅など主要50ヶ所以上

に貼らせてもらいました。また、ラジオにも出演、北日本新聞やケーブルテレビなど報道機関には12ヶ所宣伝協力して頂きました。また大町公民館館長の平内さんをはじめ職員の皆さん、ラニフラホアの有志メンバーの皆さん。更には田中組さんには全面的に協力して頂き、この書面をもって御礼を申し上げます。「ありがとうございます。この他にも、本当に沢山のご協力を頂いた皆様にも心より感謝申し上げます。「本当にありがとうございます。」紙面の関係上、詳しい内容は記載できませんが、【真成寺復興支援】とパソコンで検索して頂くと、写真や動画などで今回のプロジェクトの全貌をチェックする事が出来る様に編集しておりますので、そちらの方も楽しみにしてお待ち下さい。

昨年は震災をきっかけに、私自身が【絆】という無形の宝物を実感する事が出来た、本当に尊い一年となりました。全ての出来事に感謝しています。

### 【お正月のなごり】

さて、お話はお正月です。お正月と言えば、注連縄（しめなわ）を張って家を浄め、松飾りをして、お

供え餅を床の間に飾つたり、神棚や仏壇にお供えます。家や場所を浄めて飾るだけでなく、私達はお屠蘇（とそ）を頂いて邪気を払い、心気を一新して、清々しい気持ちで新年を迎えるのが習わしとなっています。身も心も浄め、家も浄めたところで、その年の歳徳神様（さいとくじんさま）を、松やお供え餅を依代（よりだい）にしてお迎えます。そんなお正月の習慣を1つ1つこなしながら、生まれ変わったような新しい気持ちになつて、天地自然宇宙の中に生かされているこの尊い生命に、改めて新しい息吹を甦らせたくなります。



# 「どうせが」って、見て

## いる世界が真逆になる」

ところで、お正月と言えれば次の逸話を思い出します。

「元日は 冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」トントンで有名な一休さんの歌です。元日を迎え、「おめでとう」と浮かれている私達。しかしよく考えると、私達は冥土に一歩近づいた事になります。つまりお正月とは「めでたくもありませんめでたくもなし」という歌です。また一休さんは、お正月、こともあろうに杖の先にシャレコウベをぶら下げ、お屠蘇で浮かれている家々を訪ね、「ご用心、ご用心」とシャレコウベを突きつけて歩いていったというのです。お正月早々何とも気色の悪い話をしますが、諸行無常を忘れ、限りある命を浮かれて、無為に過ごす事への一休さんらしい警鐘の行為だったのでしょうか？一休さんに引き替え日蓮聖人は、「春のはじめの御悦（およろこ）びは、月のみつるがごとく、潮のさすがごとく、草のかこむが如く、雨の降るが如し（1月7日『四

条金吾殿御返事』。「春の始めの御悦、

自他申しこめそらいおわんぬ（1月

14日『内記左近入道殿御返事』。「春

の始めの御悦び、木に花の咲くがごと

く、山に草のおいはずるがごとしと、

我も人も悦びいつて候（1月20日『春

初御消息』。「春の始めの御悦び、花

のごとくひらけ、月のごとく明らかに

わたらせたもうべし（弘安5年『春の

始御書』」などなど。これらは、い

れも日蓮聖人61歳、つまりお亡くな

りになる弘安5年の正月に、ご信者さ

んに出された年賀状の一節です。高齢

で当時すでに体調も充分ではなかった

はずです。しかしなんと明るく、希

望に満ちた言葉です。

現代社会では公私ともに、暗く悲しい

ニュースも多く、とても「おめでとう」

と浮かれている暇など無いというのが

現実かもしれません。迎えた平成24

年もおそらく多事多難な年でまさに

「ご用心ご用心」です。しかしだから

といって、一休さんのようにお正月を

斜に構えて迎える受け止め方より、お

正月を迎えられたそのこと自体を無邪

気に、屈託なく、まるで子供のよう

に喜び祝う日蓮聖人の受け止め方が私

しか思えないような人間。その人間の

中に法華経は「仏様の魂に地涌（じゆ）

の菩薩」を見、そして「太陽（日）と

蓮華（蓮）」の様に生きられた日蓮聖人。

現実から逃げ出すのではなく、その現

実に「我此土安穩（私のいる場所は常

に穩やかで安らか）」の浄土の顕現を説

く法華経。そのお釈迦様の願いを我が

願いとして、「立正安国（法華経の教え

で国民の平穩）」の実現に生きた日蓮聖

人。私達の生きる一生は、まさに《儂

（はかな）い人生》と言えましょう。だ

からこそ今日こうしてお正月を迎えら

れることが、まるで木に花が咲いたよ

うに、月が満ちたことのように嬉しい

ではないかと言祝（寿）がれた日蓮聖

人の精神を見習いたいものです。

合掌 副住職 寛敬

## ちよつと一服

### 雑煮あれこれ



魚貝、野菜など数種の材料を煮合わせ

た汁に餅を加えた羹（あつもの）。雑煮餅

ともいう。雑煮とはごつた煮の意であ

るが、古く上方（かみがた）では五臓を

保養するものとして保臈（ほうぞう）と

よんだ。宮中の女房詞（ことば）では烹

雑（ほうぞう）（ほうぞうともいい、煮は煮るの

意）といった。もともと神祭に供えた

神饌（しんせん）を下げ、神と氏子な

ど参加者が共食する「直会（なおらい）」

に起源をもち、さらにそれが年頭の年

神迎えの供物を食べることをさすよう

になった。九州各地で正月の雑煮をナ

オライあるいはその訛語（かこ）でよぶ

のはこのためである。餅については、

年始に鏡餅、大根、瓜、猪や鹿の肉な

どを食べて長寿を願う歯固（はがため

の行事が古くからあり、これがのち雑

煮に加えられるようになったのである

う。雑煮に用いる箸は柳が多く用いら

中太で両端を細く削つてある。その由

来は、足利（あしかが）七代の幼将軍義

勝のとき、元朝儀式の箸が折れ、その

七月には落馬により夭折（ようせつ）し

たため、以後太箸に改めたことによる

という。箸袋は、家族それぞれ、鶴、亀

松竹梅などの文字を書き、父が鶴で母

が亀などと定めていた。